

歯列矯正治療の 失敗と再治療

臨床現場からのレポート

菅原準二(宮城県・歯科一番町) 著

失敗症例から矯正治療のガードレールが見えてくる

1990年代中期にインプラント矯正が実用化されたことに伴い、それまで対応が困難とされてきた矯正の失敗症例を、再治療によって救済することが可能になった。

本書の目的は、第一に、臨床現場からの失敗症例の情報に基づいて共通の失敗原因を特定すること。第二に、不適切な矯正治療への警鐘を鳴らし、失敗を未然に防ぐこと。第三に、確実に安全な矯正治療とは何かを考える礎になることである。



A4判・220頁・オールカラー
定価(本体17,000円+税)



←詳しい情報はこちら

contents

Chapter 1 私の再治療例

- 症例1 再治療時37歳の男性:反対咬合の再発
- 症例2 再治療時43歳の女性:歯周病で咬合不安定を惹起
- 症例3 再治療時31歳の女性:顎矯正手術後の咬合不安定

Chapter 2 成長期の対応に問題があった再治療例

- 症例1 再治療時26歳の女性:反対咬合および叢生の再発
- 症例2 再治療時19歳の女性:上顎切歯ディスプレイが不足
- 症例3 再治療時22歳の女性:反対咬合の再発 他

Chapter 3 診療ガイドラインに基づいた成長期の矯正治療 —再治療をなくすための方策—

- 1. 成長期不正咬合の診療ガイドライン
- 2. 診療ガイドラインにおける10のポイント
- 3. 診療ガイドラインにおける重度の骨格性不正咬合への対応
- 4. 成長期不正咬合の治療タイミング
- 5. 診療ガイドラインに対する誤解 他

Chapter 4 成人期の再治療例

- 症例1 再治療時22歳の女性:口元の突出感
- 症例2 再治療時23歳の女性:顎位が不安定で顎関節痛がある
- 症例3 再治療時20歳の女性:治療後に咀嚼が困難になった 他

Chapter 5 論理的ステップに基づいた成人期の矯正治療 —失敗を避けるための方策—

- 1. 成人期矯正治療の論理的ステップ
- 2. 論理的ステップに則って対応した治験例(5年フォローアップ症例)

Chapter 6 再治療メカニクスとしての スケレタル・アンカレッジ・システム(SAS)

- 1. インプラント矯正の開発
- 2. SASとは?
- 3. 再治療に用いられるSASメカニクス
- 4. SASメカニクスを適用した最近の症例
- 5. SASメカニクスの9つの特長

Chapter 7 矯正治療の医療としての特異性 —矯正治療の本質を考える—

- 1. 矯正歯科の特異性
- 2. 不正咬合は病気か?
- 3. 病気の医療モデル
- 4. 矯正歯科の医療モデルを考えるにあたって
- 5. 矯正歯科の医療モデル

Chapter 8 まとめと提言